

(単位：千円)

決算書 (P348～P351)	10 款 5 項 2 目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	市民交流施設高田公園オーレンプラザ管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
41,194	37,676				13,132 (使用料、助産収入 課収入)	24,544
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	3,518			866	2,652	

## 【目的】

多くの市民が集い、語り、活動し、交流する場として、充実した活動を行うことができるよう、施設の適切な管理運営を行う。

## 平成 30 年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○実施内容、これまでの経過等

市民交流や子育て支援の拠点施設として、また、市民団体の活動発表の場として、維持管理を行い、年間 207,406 人が利用した。

## ○施設の管理実績

## ・利用者数

	ホール	ホール以外 の貸館施設	こども センター	見学・視察	合計
平成 29 年度 (9 月末～3 月末)	25,594 人	25,525 人	59,908 人	12,656 人	123,683 人
平成 30 年度	31,531 人	57,428 人	93,926 人	24,521 人	207,406 人

## ・施設管理における市の収支状況

区分		平成 29 年度 (9 月末開館)		平成 30 年度	
		予算	実績	予算	実績
①収入	使用料収入	1,911	5,849	9,825	11,411
	その他	25	875	149	1,722
	合計	1,936	6,724	9,974	13,133
②支出	施設維持管理費	32,664	22,899	43,968	37,676
	うち委託料	7,981	5,404	25,982	22,063
	その他	-	-	-	-
	合計	32,664	22,899	43,968	37,676
③公費投入額 (②-①)		30,728	16,175	33,994	24,543
④利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位：円)		-	131	-	118

決算書 (P348～P351)	10 款 5 項 2 目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	市民交流施設高田公園オーレンプラザ管理運営費		

### 【事業の成果】

市民が定期的に利用する公民館施設、3 世代の交流が進むこどもセンター、そして市民団体の成果発表に活用されるホールという複合施設のメリットをいかしながら、施設の維持管理を適切に行ったことから、にぎわいと活力あふれる市民交流の場とすることができた。

### 【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・開館から約 2 年が経過し、定期的・安定的に利用があるものの、今後もより多くの方々から快適に利用していただくため、受付サービスの向上やきめ細かな施設・設備の点検整備を行う必要がある。
- ・高田公園の魅力向上や駐車場の確保のため、引き続き関係課や関係機関との連携を強化し、公園内の施設が快適に利用できるよう努めていく必要がある。

### 【執行残額について】

- 入札差金 866
  - ・施設管理委託料、印刷製本費ほか
- その他 2,652
  - ・光熱水費、複写機借上料ほか（事業実績による残）



定期利用団体の成果発表会  
「アートフェス・オーレ」



上越市民吹奏楽団と浦項交響楽団等  
とのコンサート

(単位：千円)

決算書 (P350～P351)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	読書普及・自主活動事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
377	372				1 (諸収入)	371
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	5				5	

## 【目的】

おはなし会や読書週間事業などを実施し、読書活動の意義や重要性を広く啓発していくとともに、誰もが気軽に図書館を訪れ、本と触れ合う機会を多く持てるような環境づくりを推進する。

## 平成 30 年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

読書活動推進事業 255

○平成 30 年度目標

- ・読書活動推進に向けた各種催し等を実施し、図書館利用者の増加を目指す。
- ・読書活動推進事業の参加者数：8,300 人

○実施内容、これまでの経過等

## (1) こどもの読書週間及び読書週間事業の実施

- ・こどもの読書週間(4/23～5/12)と読書週間(10/27～11/9)に合わせて、司書が推奨する絵本や読み物のブックリストを作成し、各館で利用者に配布したほか、市内の小学校にも配布した。また、各館でブックリストに掲載された絵本の展示も併せて行った。
- ・「秋の読書週間記念講演会」として、俳優の紺野美沙子さんと、ピアニストの中村由利子さんによる、『あなたが輝く言葉とメロディー～トークと朗読&音楽の時間～』をオーレンプラザで実施した。(新潟県立図書館との両主催事業)

## (2) おはなし会等の読書活動推進事業の実施

- ・読み聞かせボランティア団体の協力により、主に乳幼児から小学生までを対象とした絵本の読み聞かせ会を、全館で定期的に実施した。
- ・「図書館こども祭」(6月…4館)や「新潟県教育委員会子ども読書オープンカレッジ 2018 絵本作家おはなし会 川端誠さん絵本ライブ」(新潟県教育委員会との両主催事業)「川端誠さん絵本原画展」(8月…直江津)など、読書活動の推進に関わる催し物を実施した。
- ・図書館こども祭に合わせ、高田図書館開館 110 周年を記念した『110 周年記念展示 思い出の図書館』を実施した。図書館ゆかりの物品や写真の展示などを行ったほか、利用者から図書館の思い出を募り、掲示した。

決算書 (P 350～P 351)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	読書普及・自主活動事業		

(3) 学校との連携

学習の補助や学級文庫として使用する本の貸出を行ったほか、学校に出向いて本の紹介を行うブックトークを実施するなど、児童生徒の読書活動への支援を行った。

(4) 図書館利用者登録の推進

- ・「市民プラザこどもセンターこども夏祭り」や「こころの健康づくり講演会」などのイベントにおいて図書館の出張窓口を設置したほか、ガス水道局の「絵本にでてくるお菓子をつくってみよう！」では、事業の企画段階から関わり、絵本に出てくるお菓子の人気投票も併せて実施するなど、1年を通して図書館利用の促進を図るための取組を進めた。
- ・小学校の新1年生に対して図書利用案内を配布し、利用と登録の促進を図った。

(5) 「上越市子ども読書活動推進計画（第3次）」の策定（平成31年3月）

子どもの自主的な読書活動を推進するため、「上越市第2次総合教育プラン」等に合わせ、令和元年から令和4年までの4か年を実施期間とする「上越市子ども読書活動推進計画（第3次）」を策定した。

○目標達成状況

定期的に行われるおはなし会等の催しのほか、新潟県教育委員会との連携事業や高田図書館開館110周年記念事業等を実施したことにより、読書活動推進事業の参加者数は9,315人となり、目標を上回った。

障害者サービス事業 117

○平成30年度目標

- ・デジター図書の充実を図るとともに、活字による読書が困難な方の読書推進を図る。
- ・デジター図書、カセットテープ等の録音図書の年間貸出タイトル数：600タイトル
- ※デジター図書…小説などの朗読を収録したCD-ROM形式の資料。デジターという国際規格によって作製されており、専用機器で再生することで、聞きたい箇所の頭出しや再生速度の調整などを音声案内で操作できる。

○実施内容、これまでの経過等

ボランティア団体との協働により、デジター図書を新たに54タイトル作成し、所蔵の充実を図った。

○目標達成状況

一人当たりの貸出数に大きな変化はなかったが、利用者数の減により、録音図書の貸出タイトル数は526タイトルとなり、目標は達成できなかった。

【事業の成果】

- ・ボランティア団体の協力により、1年を通して全館で定期的におはなし会を開催することができた。
- ・図書館やこどもセンターでの読み聞かせがきっかけとなり、絵本に興味を持ったり、親子で読書をする時間を持てるようになったなど、読書活動の推進に貢献することができた。
- ・録音図書の貸出タイトル数は目標を達成できなかったが、新規の登録者もあり利用層が増えている。

決算書 (P 350～P 351)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	読書普及・自主活動事業		

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・上越市子ども読書活動推進計画（第3次）の策定を踏まえ、関係各所と連携して取組を推進していく。
- ・子どもの読書活動を推進するに当たり、子どもだけでなく保護者の世代に対しても啓発活動に取り組み、家庭における読書環境の充実を働き掛けていく必要がある。
- ・ボランティア団体との協働により、障害者サービスの充実に努めるとともに、利用促進に向けた周知を図る必要がある。

【執行残額について】

○その他 5

- ・手数料、消耗品費ほか



110周年記念展示 思い出の図書館



図書館こども祭



読み聞かせサークルワンダーランド  
えほんのじかん

(単位：千円)

決算書 (P350～P351)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	高田図書館図書充実費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
16,917	16,787					16,787
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	130			48	82	

## 【目的】

暮らしの情報や課題解決、調査研究に役立つ様々な分野の図書館資料を収集・保存し、広く市民に提供する。

## 平成 30 年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○平成 30 年度目標

- ・図書館資料の充実を図るとともに、市民ニーズを踏まえた地域の情報基盤としての図書館サービスを提供する。
- ・高田図書館、浦川原分館及び頸城分館の利用数  
図書貸出利用者数：124,150 人 図書貸出冊数：524,200 冊

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・平成 30 年度受入冊数 8,137 冊 (購入：7,228 冊、寄贈：909 冊)
- ・平成 30 年度購入実績

(単位：冊、千円)

区分	全体 ①+②	高田図書館 ①				分館 ②
		一般書		児童書		
		一般用	ティーンズコーナー			
冊数(割合)	7,228	6,571	4,448 (67.7%)	260 (4.0%)	1,863 (28.3%)	657
金額	13,163	12,155	8,838	400	2,917	1,008

決算書 (P 350～P 351)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	高田図書館図書充実費		

・蔵書冊数（雑誌除く） (単位：冊)

施設名	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	前年度比較
高田図書館	259,809	262,370	264,551	2,181
分館	37,253	36,305	36,411	106
合計	297,062	298,675	300,962	2,287

・貸出利用者数（団体含む） (単位：人)

施設名	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	前年度比較
高田図書館	114,157	113,096	115,950	2,854
分館	8,522	9,216	10,467	1,251
合計	122,679	122,312	126,417	4,105

※団体も1人として計算

・貸出冊数(団体含む) (単位：冊)

施設名	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	前年度比較
高田図書館	487,332	475,686	477,218	1,532
分館	31,155	31,715	35,154	3,439
合計	518,487	507,401	512,372	4,971

#### ○目標達成状況

貸出利用者数は 126,417 人で目標を上回ったが、一人当たりの貸出冊数が前年より減少したため、貸出冊数は 512,372 冊となり、目標は達成できなかった。

#### 【事業の成果】

- ・図書館としての役割を果たすため、多様な分野の図書資料を収集すると同時に、県内外の図書館から必要な図書資料の借用も積極的にを行い、利用者に提供した。
- ・貸出冊数は目標を達成できなかったものの、高田図書館及び分館のいずれも前年度より増加した。なお、分館では、貸出利用者数及び貸出冊数とも前年度比較で10%以上増加した。

#### 【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

図書館資料の充実を進めるとともに、図書の紹介やテーマ展示に工夫をして、図書館の魅力アップに努め、減少傾向にある成人の利用増に努める。

#### 【執行残額について】

○入札差金 48

- ・合本製本委託料、新聞デジタル化作業委託料、高額図書購入費ほか

○その他 82

- ・追録、通信運搬費

(単位：千円)

決算書 (P350～P351)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	図書館管理電算化事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
23,476	23,440					23,440
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	36				36	

## 【目的】

図書館サービスの正確化、迅速化を図るために、図書館システム及び端末を適切に維持管理する。

## 平成 30 年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○平成 30 年度目標

- ・図書館システム及び端末の適正な維持管理を図るとともに、市民ニーズを踏まえた利用しやすい図書館サービスを提供する。
- ・インターネットによる図書館資料予約処理件数：45,500 件

## ○実施内容、これまでの経過等

図書館システムのリース満了に伴い平成 29 年 2 月に高田図書館と直江津図書館のシステムと機器を更新するとともに、浦川原分館と頸城分館も同一のシステムと機器を導入し、4 館のネットワーク化を図った。また、図書館システムの更新に伴い、スマートフォンサイトを新たに設定したことから、スマートフォン用画面からホームページサービスが利用しやすくなったことや、返却期限の通知メールを発信するなどの新たな機能が備わったことから、図書館サービスの迅速化や利便性の向上が図られた。

## &lt;インターネット予約処理件数&gt;

(単位：件)

項目	平成 28 年度*	平成 29 年度	平成 30 年度	前年度比較
インターネット予約処理件数	40,122	44,977	49,657	4,680
ホームページアクセス数	302,242	181,573	176,284	△5,289

\*平成 29 年 2 月にシステムを改修



決算書 (P350～P351)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	図書館管理電算化事業		

○目標達成状況

インターネット予約処理件数は 49,657 件で、目標を上回った。

【事業の成果】

平成 29 年 2 月にスマートフォン用サイトを作成したことから利便性が向上し、インターネット予約処理冊数は毎年度増加している。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・予約に関する要望に対応するため、図書館ホームページの利便性向上を図る。
- ・図書館ホームページの利用促進を図るため、広報紙や市のホームページ、報道機関への情報提供などにより、広く市民にPRしていく。

【執行残額について】

○その他 36

- ・消耗品費ほか

(単位：千円)

決算書 (P 350～P 353)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	高田図書館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
63,901	63,360				369 (使用料、財産収入、 諸収入)	62,991
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	541			107	434	

## 【目的】

市民の生涯学習活動の拠点施設として、高田図書館及び分館を適切に維持管理し、安全・安心な読書環境を提供する。

## 平成 30 年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・主な維持管理費(施設関係)
 

非常電源用蓄電池交換修繕(高田図書館)	1,080
空調機部品交換修繕(高田図書館)	578
玄関及びホール照明LED化工事(高田図書館)	421
ボランティア室間仕切り修繕(高田図書館)	159
玄関自動ドア部品交換修繕(高田図書館)	113
電動書架修繕(高田図書館)	84
ガス漏れ警報器交換修繕(高田図書館)	58

## ・図書館資料の配送

直江津図書館、浦川原分館、頸城分館及び公民館図書室を車両で定期的に巡回し、高田図書館を起点に直江津図書館へは週6回、分館へは週3回、公民館図書室へは週1～2回、図書館資料の配送を行った。

## ○施設の管理実績

## ・貸出利用者数

(単位：人)

施設名	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
			計画	実績
高田図書館・分館	122,679	122,312	124,150	126,417

決算書 (P 350～P 353)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	高田図書館管理運営費		

・施設管理における市の収支状況

区 分		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	62	49	45	72
	その他	95	288	292	297
	合計	157	337	337	369
②支出	施設維持管理費	25,573	30,110	28,638	28,554
	うち委託料	12,175	11,245	12,930	12,866
	その他	48,290	70,423	35,263	34,806
	合計	73,863	100,533	63,901	63,360
③公費投入額 (②-①)		73,706	100,196	63,564	62,991
④利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位:円)		601	819	512	498

※④利用者は、高田図書館、分館の図書貸出利用者

【事業の成果】

高田図書館の設備のうち、老朽化が著しかった非常電源用蓄電池の半数を交換したほか、老朽化している空調設備の部品交換及び玄関照明等のLED化工事等を行い、施設の長寿命化及び設備の安定化により読書環境の向上を図った。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・高田図書館は平成 6 年に開館して 25 年が経過し、空調設備、昇降機、消防設備等の諸設備及び建築物の老朽化が進んでいることから、利用者の安全確保と快適な読書環境の提供及び施設の長寿命化を図るため、引き続き優先順位を定めて修繕を実施していく。
- ・身近に本がある環境を提供するため、公民館図書室を窓口にした図書館資料の予約や受取り、返却が円滑にできるよう、引き続き配送サービスに取り組み、利便性を図っていく。

【執行残額について】

○入札差金	107	
・委託料	64	
・工事請負費ほか	43	
○その他	434	
・共済費、費用弁償等	322	(現業非常勤一般職の勤務実績による)
・備品修繕料	16	
・通信運搬費	34	
・原材料費ほか	62	

(単位：千円)

決算書 (P 352～P 353)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	直江津図書館図書充実費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
7,203	7,166					7,166
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	37					37

## 【目的】

暮らしの情報や課題解決、調査研究に役立つ様々な分野の図書館資料を収集・保存し、広く市民に提供する。

## 平成 30 年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○平成 30 年度目標

## 直江津図書館利用数

- ・ 図書及び視聴覚資料貸出者数 82,350 人
- ・ 図書及び視聴覚資料貸出点数 305,000 点

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・ 平成 30 年度受入冊数 3,794 冊 (購入：3,446 冊、寄贈：348 冊)
- ・ 平成 30 年度購入実績

(単位：冊、千円)

	直江津図書館 全体	一般書			児童書
		鉄道図書 コーナー	ティーンズ コーナー		
冊数 (割合)	3,446	2,532 (73.5%)	149 (4.3%)	351 (10.2%)	914 (26.5%)
金額	5,407	4,066	256	443	1,341

## ・ 蔵書冊数 (雑誌除く)

(単位：冊)

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	前年度比較
冊数	140,501	144,021	147,530	3,509

決算書 (P352～P353)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	直江津図書館図書充実費		

・貸出利用者数（団体含む） （単位：人）

		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	前年度比較
資料種別	図書・雑誌	75,149	76,574	75,531	△1,043
	視聴覚資料	6,594	6,141	6,227	86
合 計		81,743	82,715	81,758	△957

・貸出点数（団体含む） （単位：点）

		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	前年度比較
資料種別	図書・雑誌	292,048	297,001	291,049	△5,952
	視聴覚資料	10,697	10,209	10,244	35
合 計		302,745	307,210	301,293	△5,917

○目標達成状況

貸出利用者数は 81,758 人（99%）、貸出点数は 301,293 冊（99%）となり、どちらも目標を下回った。

【事業の成果】

- ・直江津学びの交流館前の臨時駐車場が工事のため閉鎖となったことが大きく影響し、平成 29 年度との比較では、貸出利用者数が 1.2%、貸出点数が 1.9%、それぞれ減少した。
- ・図書館の魅力アップを図るため、新潟県主催の絵本作家おはなし会を行うなど、様々な本との出会いを工夫しながら市民に図書や視聴覚資料を提供した。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

駐車場の確保を図るとともに、今後も継続的に新たな催しを行うなど、読書の機会の創出とともに資料の充実を図ることによって、直江津図書館への来館を促していく。

【執行残額について】

○その他 37

- ・消耗品費、通信運搬費ほか

(単位：千円)

決算書 (P352～P353)	10款5項3目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	直江津学びの交流館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
54,038	53,716				4,567 (使用料、財産収入 諸収入)	49,149
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	322				322	

## 【目的】

市民の生涯学習活動や文化活動の支援を行うとともに、情報提供の場としての直江津学びの交流館・直江津図書館の適切な管理、運営を図る。

## 平成30年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○平成30年度目標

年間来館者総数は過去3年の平均249,500人以上とする。

## ○実施内容、これまでの経過等

## ・利用実績

開館日数：348日

部屋別	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	利用件数	稼働率※	利用件数	稼働率※	利用件数	稼働率※
イベントホール	653件	62.7%	563件	54.1%	542件	51.9%
音楽室	588件	56.5%	677件	65.0%	690件	66.1%
小集会室	632件	60.7%	685件	65.8%	674件	64.6%
多目的ホールA	502件	48.2%	532件	51.1%	512件	49.0%
多目的ホールB	370件	35.5%	428件	41.1%	331件	31.7%
多目的ホールC	424件	40.7%	456件	43.8%	466件	44.6%
合計	3,169件	50.7%	3,341件	53.5%	3,215件	51.3%
貸館利用者数	37,703人		41,329人		39,680人	

※稼働率：1日のうち、午前・午後・夜間、全て利用された場合を100%とし、1回の利用を33.3%とする。

## ○施設の利用実績

## ・来館者数

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
			目標	実績
来館者数	247,656人	247,517人	249,500人	245,609人

決算書 (P352～P353)	10款5項3目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	直江津学びの交流館管理運営費		

・施設管理における市の収支状況

区 分		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
				予 算	実 績
①収 入	使用料収入	3,715	4,147	3,890	4,082
	その他	140	441	397	485
	合計	3,855	4,588	4,287	4,567
②支 出	施設維持管理費	30,388	25,800	26,015	25,665
	うち委託料	14,732	10,622	10,746	10,717
	その他	28,908	27,205	28,023	28,051
	合計	59,296	53,005	54,038	53,716
③公費投入額 (②-①)		55,441	48,417	49,751	49,149
④入館者 1 人当たりの 公費投入額 (単位:円)		224	196	199	200

○目標達成状況

年間来館者数は 245,609 人であり、目標と比べて 3,891 人下回った。

【事業の成果】

貸館利用件数については、平成 29 年度に比べ 126 件、使用料収入で 65 千円減少した。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・来館者数の減少の要因については、平成 30 年 4 月まで開設していた臨時駐車場が工事のため閉鎖になったことが大きく影響したものと考えている。
- ・また、年間を通じて定期的に利用していた貸館利用団体の構成員の高齢化により、活動を中止した団体があったことも減少要因の一つに挙げられる。
- ・令和 2 年度は直江津駅前に複合ビル及び立体駐車場の開設も控えており、生涯学習活動、各種集会や研修会などの会場として、市内のみならず、県内外からの利用促進にもつながるよう努めたい。
- ・平成 22 年 10 月の開館から 8 年が経過し、年間約 25 万人の多くの利用があることから、施設の計画的なメンテナンスを図りながら、維持管理を行いたい。

【執行残額について】

- その他 322
- ・報酬 62
  - ・共益費負担金 217
  - ・共済費ほか 43

(単位：千円)

決算書 (P 352～P 355)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	博物館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
48,415	43,913				5,320 (使用料、譜収入)	38,593
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	4,502	80		1,567	2,855	

## 【目的】

当市の貴重な歴史・民俗等について調査・研究し、その成果を展覧会や図録等の刊行物で市民に紹介するとともに、安全で快適な施設の維持管理を行う。

平成 30 年度 の 取 組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

企画展開催事業 7,635

○平成 30 年度目標

入館者：30,000 人

○実施内容、これまでの経過等

(1) 企画展の開催

展覧会名	会期	内容	入館者数 (うち展覧会 観覧者数)
開館記念企画展 徳川四天王 榊原康政の遺宝	7/21	徳川四天王として知られた高田藩の藩祖榊原康政の遺宝を紹介した。	17,185 人 (6,924 人)
生誕 150 年記念企画展 川上善兵衛	～9/17	ぶどう栽培とワイン製造に生涯を捧げた川上善兵衛の業績を紹介した。	
戊辰戦争 150 年特別展 高田藩と戊辰戦争	10/6 ～12/2	戊辰戦争において困難な時局を懸命に乗り越えた高田藩の軌跡を紹介した。	9,850 人 (4,184 人)
企画展 探検！むかしの暮らし	1/4 ～3/24	昭和のくらしの道具を中心に、身の回りの生活の移り変わりを紹介した。	8,617 人 (3,797 人)
企画展期間中の入館者数合計…(a)			35,652 人 (14,905 人)
常設展示のみの期間の入館者数…(b)			5,482 人 (1,207 人)
開館後の総入館者数 (7/21～3/31) …(a) + (b)			41,134 人 (16,112 人)



算書 (P 352～P 355)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	博物館管理運営費		

(2) 教育・普及事業

事業名	内 容	開催日	参加者数
金谷山史跡巡り 戊辰戦争 150 年特別展	見学地 高田藩士墓地、薩摩・長州藩墓地、 会津墓地、高田事件記念碑、 日本スキー発祥記念館ほか	10/20	16 人 (定員 15 人)
記念講演会 戊辰戦争 150 年特別展 高田藩と戊辰戦争	演題 「戊辰内乱とそれぞれの選択」 講師 宮間純一氏 (中央大学文学部准教授) 会場 オーレンプラザ研修室・会議室	11/3	66 人 (定員 60 人)
展示解説会	常設展示「越後の都」 *予約による団体解説を実施	通年	44 件 1,307 人
	戊辰戦争 150 年特別展「高田藩と戊辰戦争」	10/13	32 人
		11/17	36 人
	企画展Ⅱ「探検むかしの暮らし」 *小学 3 年生の授業に対応	会期中	45 校 1,637 人
出前講座・職員派遣	新潟県生涯学習協会企画講座	5/15	約 60 人
	上越ケーブルテレビジョン公開講座	8/22	約 50 人
	西城町 2 丁目町内会敬老会	9/17	約 20 人
	八千浦地区公民館元気の出るふるさと講座	9/20	約 20 人
	高田地区公民館講座 (2 回連続)	9/26 10/19	約 30 人
	上越市南地区町内会長連絡協議会研修会	10/12	約 100 人
	旧高田藩和親会郷土史フォーラム	10/28	約 100 人
	新潟大学 (3 回連続)	10/31	約 100 人
		11/7 11/14	
	郷土の偉人“前島密翁”を顕彰する会講演会	12/1	約 70 人
	郷土史友の会おおがた歴史講演会	2/3	約 80 人
新潟市歴史博物館館長講座	3/17	約 80 人	
刊行物の発行	名称：『生誕 150 年記念企画展 川上善兵衛』パンフレット 規格：A4 判 24 ページ 部数：1,000 部		
	名称：『戊辰戦争 150 年特別展 高田藩と戊辰戦争』展覧会図録 規格：A4 判 56 ページ 部数：1,000 部		
	名称：『探検！むかしの暮らし』探検ブック ※小学 3 年生用のワークシート 規格：A2 判 部数：2,000 部		

決算書 (P352～P355)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	博物館管理運営費		

○目標達成状況

- ・7月21日に計画どおりリニューアルオープンを行った。
- ・開館以来の入館者数合計は41,134人となり、目標数を達成した。

民俗資料整理事業 3,764

○実施内容、これまでの経過等

- ・平成30年度は、三和区・大島区の民俗資料の移動を実施し、クリーニング、状態確認、台帳突合、配架作業を行った。これにより計画した各区からの資料移動作業は終了した。
- ・平成19年度以降、各区の民俗資料の統一的な整理を進めてきた。
- ・民俗資料の再整理と台帳化作業は終了し、データベース化を進めている。
- ・平成25年度から岡沢拠点収蔵施設を整備し、民俗資料の一元管理を進めている。

○調査・研究事業及び資料管理事業

市内に所在する歴史・民俗資料の調査・収集及び歴史資料や図書の購入を行った。

施設の維持管理 32,514

○実施内容

歴史博物館、岡沢拠点収蔵施設及び黒岩拠点収蔵施設の維持管理を適正に実施した。

○施設の管理実績

- ・利用者数等

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
			計 画	実 績
入館者数	23,028人	-	30,000人	41,134人

※平成29年度は改修工事のため休館

- ・施設管理における市の収支状況

区 分		平成28年度	平成29年度	平成30年度	
				予 算	実 績
① 収入	使用料収入	1,036	-	4,135	4,924
	その他	1	-	615	396
	合計	1,037	-	4,750	5,320
② 支出	施設維持管理費	17,134	7,472	35,519	32,514
	うち委託料	8,617	2,934	13,027	11,665
	その他	8,047	5,338	12,896	11,399
	合計	25,181	12,810	48,415	43,913
③ 公費投入額 (②-①)		24,144	12,810	43,665	38,593
④ 利用者1人当たりの 公費投入額 (単位:円)		1,048	-	1,455	938

※平成29年度は、大規模改修工事による休館のため収入なし

決算書 (P 352～P 355)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	博物館管理運営費		

### 【事業の成果】

- ・ 戊辰戦争 150 年と川上善兵衛生誕 150 年の節目に、特別展「高田藩と戊辰戦争」と企画展「川上善兵衛」を開催した。
- ・ 時機を得た特別展・企画展を開催することによって、市民が地域の歴史や文化に触れる機会を提供し、郷土の歴史・文化への理解や愛着を深めることができた。
- ・ 年間（7 月～3 月）の入館者数は 41,134 人となり、目標 30,000 人を 37%、11,134 人上回った。開館直後、夏休み期間中の入館者数が好調であった上、全国で開催された戊辰戦争 150 年のイベントの相乗効果もあって、特別展「高田藩と戊辰戦争」開催期間中も計画を上回る入館者数となった。
- ・ 例年開催している「探検！むかしのくらし」では、45 校 1,637 人（うち市内 41 校 1,529 人）の小学 3 年生が見学した。
- ・ 岡沢拠点収蔵施設・黒岩拠点収蔵施設では、各区に収蔵される民俗資料の集約を進めてきた。平成 30 年度は三和区・大島区の民俗資料の移動を実施し、計画した資料の移動は終了した。

### 【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

収蔵資料や市内の歴史に関する研究を深め、新たな知見の蓄積に努めていくとともに、その成果を市民に還元するため、論文発表や講座・展覧会を実施していく。

### 【執行残額について】

- 事業費節減 80
  - ・ 旅費（資料借用・返却の日程・工程を調整したことによる減ほか）
- 入札差金 1,567
  - ・ 印刷製本費、委託料ほか
- その他 2,855
  - ・ 報償金 50（資料借用謝礼の残）
  - ・ 光熱水費 1,180（開館まで〈4/1～7/20〉の使用量が想定を下回ったため）
  - ・ 委託料 692（収蔵庫雪下ろし費用の実績による残ほか）
  - ・ 使用料及び賃貸料ほか 933



常設展示室「越後の都」

(単位：千円)

決算書 (P354～P355)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	小林古径記念美術館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
4,520	4,102					4,102
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	418			4	414	

## 【目的】

当市出身の小林古径の作品及び当市ゆかりの美術作品等を適正に保存管理し、調査研究する。

## 平成 30 年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○実施内容

- ・美術館は増改築工事に伴う休館中であったが、新年祝賀会において小林古径の原寸大デジタル複製画「鶴と七面鳥」を展示し、多くの参加者から触れてもらう機会を提供した。
- ・令和3年に生誕90年を迎える上越市出身の彫刻家岩野勇三の文献及び作品の所在について調査し、美術館増改築後の企画展示に向けて準備を行った。
- ・収蔵品及び施設の適正な維持管理を行った。

## ○施設の管理実績

- ・利用者数等

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
			計 画	実 績
入館者数	23,153 人	0 人	0 人	0 人

※平成 29・30 年度は、増改築工事に伴い休館

決算書 (P 354～P 355)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	小林古径記念美術館管理運営費		

・施設管理における市の収支状況

区分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度		
			予 算	実 績	
①収入	使用料	1,071	-	-	
	その他	320	2	-	
	合計	1,391	2	-	
②支出	施設維持管理費	9,646	6,900	4,366	3,965
	うち委託料	19	279	281	178
	その他	4,810	208	154	137
	合計	14,456	7,108	4,520	4,102
③公費投入額 (②-①)		13,065	7,106	4,520	4,102
④利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位:円)		564	-	-	-

【事業の成果】

増改築工事に伴う休館中における収蔵品の適切かつ安全な保存環境を維持した。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

増改築工事に伴う休館中の事業として出張講座や館外展示等を実施し、古径や上越ゆかりの作品に触れる機会を提供する。また、令和 2 年秋のリニューアルオープンに向けて、展覧会や開館準備を進めていく。

【執行残額について】

- 入札差金 4
  - ・印刷製本費、委託料
- その他 414
  - ・光熱水費 162 (休館による使用量の減)
  - ・報酬、旅費、役務費ほか 252

(単位：千円)

決算書 (P354～P355)	10款5項4目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	小林古径邸管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
8,884	8,319				342 (使用料)	7,977
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	565			141	424	

## 【目的】

国登録有形文化財である小林古径邸を適正に管理・運営するとともに、建物を活用して古径の人となりや芸術性を紹介する。

平成 30 年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○実施内容

- ・小林古径邸を適正に維持管理し、公開するとともに、所蔵品・寄託品を活用した展示を行った。

展覧会名	会期	内容	入館者数
春季展 ～新収蔵品・北大路魯山人 の作品とともに	4/3～5/31	春にちなんだ小林古径の素描作品及び原寸大デジタル複製画を展示し、色彩豊かな春を感じていただくとともに、平成29年度に新たに寄託された北大路魯山人の陶芸作品を展示した。	2,480人

※6/1以降は増改築工事に伴い休館

決算書 (P354～P355)	10款5項4目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	小林古径邸管理運営費		

○施設の管理実績

・施設管理における市の収支状況

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度		
			予算	実績	
①収入	使用料	1,071	1,007	452	342
	その他	29	6	-	-
	合計	1,100	1,013	452	342
②支出	施設維持管理費	12,691	12,411	8,884	8,319
	うち委託料	7,431	7,133	6,235	6,284
	その他	170	149	-	-
	合計	12,861	12,560	8,884	8,319
③公費投入額 (②-①)		11,761	11,547	8,432	7,977
④利用者1人当たりの公費投入額 (単位:円)		1,215	1,689	-	-

【事業の成果】

- ・国登録有形文化財である古径邸を適正に維持管理することができた。
- ・画室内での古径作品の展示とあわせて本邸内に北大路魯山人の陶芸作品を展示し、近代数寄屋建築と一体的に鑑賞できる機会を提供できた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

令和2年秋の美術館リニューアルオープン後には美術館と古径邸を一体的に管理することから運営方法についての検討を進める。

【執行残額について】

○入札差金 141

・委託料

○その他 424

・光熱水費 320 (休館による使用量の減)

・報酬、役務費ほか 104

(単位：千円)

決算書 (P354～P355)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	歴史民俗資料館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
2,032	1,951				67 (使用料)	1,884
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	81				81	

## 【目的】

牧歴史民俗資料館が収蔵する国史跡「宮口古墳群」の出土品（新潟県指定有形文化財）を始め、水科古墳群や菅原古墳の出土品、油田関係資料を含む民俗資料を適正に保存・管理し、公開する。

## 平成 30 年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○平成 30 年度目標

入館者数：800 人

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・ 牧歴史民俗資料館の維持管理
- ・ 開館期間 4 月～11 月（12 月～3 月は休館）
  - ※平日は希望見学（牧区総合事務所で鍵を管理）
- ・ 上越考古学のあけぼの企画展を実施（年 2 回）
  - 第 1 回目「梅山寿三郎と坪井正五郎」4 月 7 日～7 月 31 日
  - 第 2 回目「斎藤秀平と上越考古学会」8 月 4 日～11 月 30 日

## ○施設の管理実績

- ・ 利用者数等

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
			計 画	実 績
入館者数	886 人	790 人	800 人	657 人



決算書 (P354～P355)	10款5項4目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	歴史民俗資料館管理運営費		

・施設管理における市の収支状況

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度		
			予算	実績	
①収入	使用料収入	69	73	63	67
	その他	-	-	-	-
	合計	69	73	63	67
②支出	施設維持管理費	2,244	2,005	2,032	1,951
	うち委託料	326	326	327	324
	その他	-	-	-	-
	合計	2,244	2,005	2,032	1,951
③公費投入額(②-①)	2,175	1,932	1,969	1,884	
④利用者1人当たりの 公費投入額(単位:円)	2,455	2,446	2,461	2,868	

○目標達成状況

上越考古学のあけぼの企画展を年2回に分けて開催し、多くの入館者があったが、市内の小学校や団体などの利用人数が減少したことから達成できなかった。

【事業の成果】

市内小学校の総合学習や公民館講座などにおいて、幅広い年代層に対し地域の歴史文化について学習する場を提供できた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

市内小学校や団体等の利用人数が減少していることから、近隣小学校の利用促進に努めるとともに、歴史博物館やスキー発祥記念館でのPRに努める。

【執行残額について】

○その他(事業実績による残)	81	
・報酬、共済費、旅費		42
・消耗品費、光熱水費、修繕料ほか(需用費)		33
・通信運搬費、委託料(役務費、委託料、使用料及び賃借料)		6

(単位：千円)

決算書 (P354～P357)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	小林古径記念美術館増改築事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
112,250	85,890		9,000	51,200	25,600 (寄附金)	90
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
25,420	940			940		

## 【目的】

小林古径邸敷地内に古径作品や上越ゆかりの美術作品等を公開するための展示施設を整備する。

## 平成 30 年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○平成 30 年度目標

令和 2 年秋のリニューアルオープンに向け、増改築工事に着手する。

## ○実施内容、これまでの経過等

## (整備方針)

- ・小林古径を中心として、上越ゆかりの美術作品や他館から借用した美術作品など、多様な企画展を開催するために必要な施設整備を行う。
- ・展覧会活動のほか、子どもから大人まで気軽に美術に親しめるようなワークショップを開催する。

## (主な整備内容)

- ・増改築工事：展示室、一時保管庫(収蔵庫)、多目的室、ロビー、トイレなど
- ・その他整備工事：庭園整備、庭園散策路、古径塔移設など

## (整備スケジュール)

年度	実施内容	事業費	
平成 27 年度	内部検討、基本設計	実績	1,624
平成 28 年度	基本設計、地質調査	実績	7,331
平成 29 年度	実施設計	実績	21,327
平成 30 年度	建設工事	実績	85,890
令和元年度	建設工事、警備工事、ガス消火設備設置工事等	予定	389,609
令和 2 年度	外構工事、石碑移設、備品購入等	予定	45,888
事業費合計			551,669

## ○目標達成状況

増改築工事に着手し、基礎部分の工事を完了した。

決算書 (P354～P357)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	小林古径記念美術館増改築事業		

**【事業の成果】**

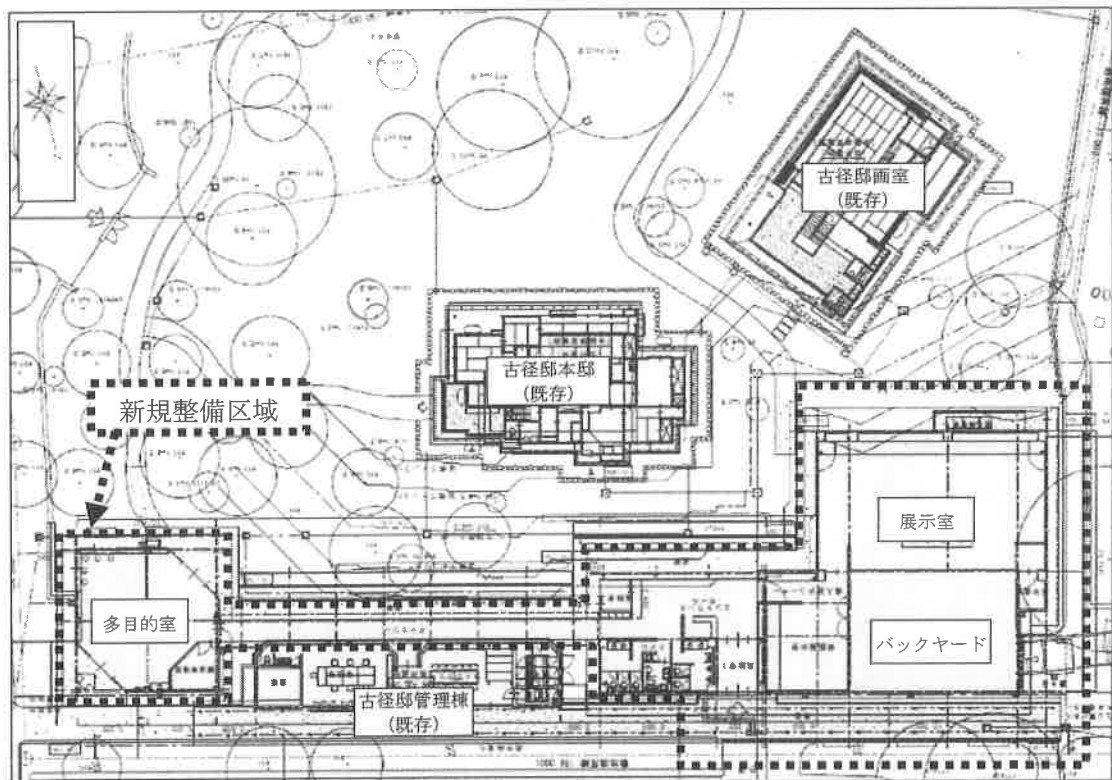
適切に発注管理を行ったことにより、計画どおりに工事着手できた。

**【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】**

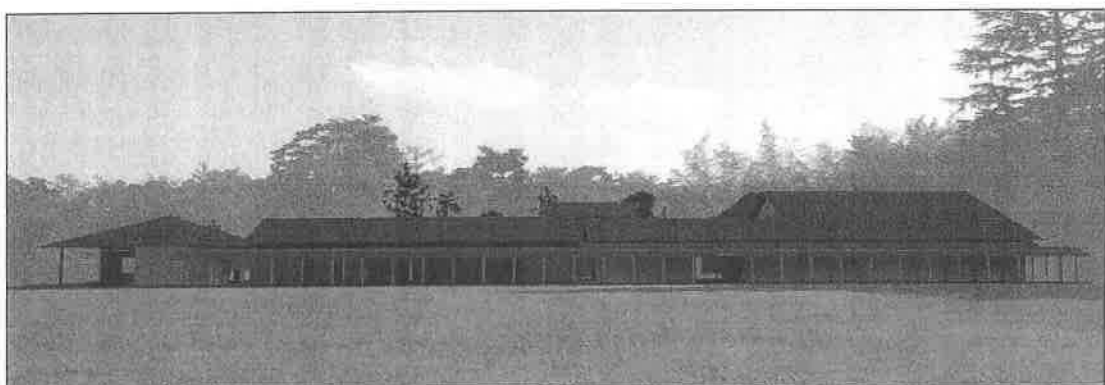
工事の進捗管理を適切に行い、工期内での完成を図る。

**【執行残額について】**

- 入札差金 940
- ・工事監理委託料



平面図



完成イメージパース (北面)

(単位：千円)

決算書 (P 356～P 357)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	スキー発祥記念館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
4,998	4,919				288 (使用料)	4,631
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
—	79			2	77	

## 【目的】

日本におけるスキー発祥と歴史的変遷、当市のスキー産業の盛衰等を学べる場を提供し、郷土に対する理解を深め、スキーに関する教育、学術、文化の振興を図るとともに、「日本スキー発祥の地 上越市」を市内外に広く紹介する。

## 平成 30 年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○平成 30 年度目標

入館者数：3,100 人

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・記念館入口ホールの照明器具交換や展示室マルチエアコンの修繕など、老朽化が進む施設の維持管理に努めた。
- ・夏休み及び金谷山スキー場営業期間中に、金谷山スーパーボブスレーやスキー場利用者に対する入館料の割引措置を実施した。スーパーボブスレー乗り場などに割引措置のPRポスターを掲示した。(平成 28 年度：4 人、29 年度：43 人、30 年度：65 人)
- ・冬季シーズンに合わせて、ポスター・チラシを作成し新潟県、長野県等近隣のスキー場やホテル等、市内各施設に配布し誘客を促した。
- ・博物館事業と連携した金谷山史跡巡りを実施し、金谷山一帯の魅力ある史跡を紹介するとともにスキー発祥記念館のPRを行った。

## ○施設の管理実績

- ・利用者数等

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
			計 画	実 績
入館者数	2,918 人	2,649 人	3,100 人	2,737 人

決算書 (P356～P357)	10 款 5 項 4 目 博物館費	所管課等	文化行政課
事業名	スキー発祥記念館管理運営費		

・施設管理における市の収支状況

区分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度		
			予算	実績	
① 収入	使用料収入	250	253	290	288
	その他	-	-	-	-
	合計	250	253	290	288
② 支出	施設維持管理費	4,403	4,591	4,848	4,790
	うち委託料	2,698	2,776	2,843	2,828
	その他	552	203	150	129
	合計	4,955	4,794	4,998	4,919
③ 公費投入額 (②-①)	4,705	4,541	4,708	4,631	
④ 利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位: 円)	1,612	1,714	1,519	1,692	

○目標達成状況

市内小学校やレルヒ祭・スキーの日の入館者数が平成 29 年度を下回ったため、入館者数は 2,737 人となり、目標を達成できなかった。

【事業の成果】

日本スキー発祥の歴史・文化を学ぶことができる場を提供し、地域の歴史認識や郷土への愛着の醸成に寄与した。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・入館者数は平成 29 年度を上回ったが、目標値には達しなかった。
- ・引き続き市内の小中学校へPRし、入館者数の目標達成に努める。
- ・ポスター・チラシの配布時期や配布先を見直し、入館者増につなげていく。

【執行残額について】

- 入札差金 2
  - ・委託料
- その他 77
  - ・光熱水費、修繕料ほか

(単位：千円)

決算書 (P356～P357)	10款5項5目 水族博物館費	所管課等	教育総務課 (平成30年度所管は新水族博物館整備課)
事業名	水族博物館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
246,030	237,112				223,151 (繰越金)	13,961
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
	8,918			1	8,917	

## 【目的】

自然環境の保全などへの関心を高めるため、水生生物の飼育展示などを行うとともに、来館者の安全確保を第一に施設の維持管理を行う。

平成30年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○平成30年度目標

新施設の開館準備を進めるとともに、開館後の適切な管理を行う。

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・水族博物館の開館に向け、生物の飼育環境の調整、生物や備品などの調達、搬入を進めた。
- ・水族博物館の開館に先立ち、自治体、報道、旅行者等の関係者を対象とした内覧会を実施し、施設をPRするとともに、市民サービスの観点から、市民を対象とした先行入館日を設けた。
- ・開館式典に、在日アルゼンチン共和国大使館特命全権大使、マゼランペンギンの種の保全に向けた協力協定を締結しているアルゼンチン共和国チュブ州政府の担当次官を招へいした。
- ・指定管理者の知見や技術に基づき、管理運営を進めた。

## ○施設の管理実績

## ・入館者数等

区分	平成28年度	平成29年度※1	平成30年度※2	
			計画	実績
入館者数	194,852人	37,847人	494,610人	732,759人
入館料収入	136,754,250円	25,181,390円	630,278,280円	973,460,178円

※1 平成29年度の開館期間は4月1日から5月14日まで

※2 平成30年度の開館期間は6月26日から3月31日まで

決算書 (P 356～P 357)	10 款 5 項 5 目 水族博物館費	所管課等	教育総務課 (平成 30 年度所管は新水族博物館整備課)
事業名	水族博物館管理運営費		

・指定管理者制度導入施設における市の収支状況

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度		
	実績	実績	予算	実績	
①収入	—	—	—	—	
②支出	施設管理運営 業務委託料	102,600	141,108	228,610	228,610
	委託料	0	10,001	11,066	3,797
	修繕料	8,970	659	614	0
	その他 (土地借上料、備品 購入費等)	2,352	27,904	366	354
	合 計	113,922	179,672	240,656	232,761
③公費投入額 (②-①)	113,922	179,672	240,656	232,761	
④入館者 1 人当たりの 公費投入額(単位:円)	585	4,747	487	318	

○指定管理者制度の導入効果

複数の水族館を運営する指定管理者に既有的のノウハウに加え、旧水族博物館の管理運営を通して指定管理者が得た地域性や入館者動向などに関する知見を基に、効果的な PR や魅力的な展示を実施することにより入館促進が図られ、計画していた入館者数を大幅に上回った。

(参考) 指定管理者制度導入施設における指定管理者の収支状況 (税抜)

区 分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度		
	実績	実績	計画	実績	
①収入	利用料金収入	126,995	23,814	583,591	901,352
	施設管理運営 業務委託料	95,000	130,656	203,106	211,676
	その他	10,492	11,564	7,056	4,187
②支出	226,068	145,460	608,993	894,500	
差引 (①-②)	6,419	20,574	184,760	222,715	

○目標の達成状況

- ・開館日に向け、計画的に準備を進めた。
- ・施設の PR や開館式典への要人招へいにより、施設の認知度向上を図った。
- ・指定管理者の知見や技術をいかすことにより、適切な管理運営を実施した。

決算書 (P 356～P 357)	10 款 5 項 5 目 水族博物館費	所管課等	教育総務課 (平成 30 年度所管は新水族博物館整備課)
事業名	水族博物館管理運営費		

### 【事業の成果】

指定管理者の知見や技術をいかした管理運営の下、テーマである日本海に生息する水生生物、マゼランペンギンや鯨類の常設展示、水生生物の発する音をテーマにした特別展「おとがたり」などにより、水生生物に関する情報を発信するとともに、施設の舞台裏を紹介するバックヤードツアーを実施し、入館者の幅広い興味や学習欲求に応えた。

### 【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

水生生物を通じた学びの場、交流の場として、市民を始めとする多くの方々の持続的な利用を確保するために、展示や教育普及事業の更なる充実を図るとともに、適切な維持管理や計画的なリニューアルを実施していく必要がある。

### 【執行残額について】

○入札差金	1	
・Wi-Fi設備工事		
○その他	8,917	
・報償金		244
・費用弁償		149
・普通旅費		5
・消耗品費		4
・営繕修繕料		614
・電信電話料		10
・筆耕翻訳料		67
・生物管理業務委託料	7,269	
・生物保全連携業務委託料	553	
・土地借上料		1
・諸会議出席負担金		1



(単位：千円)

決算書 (P 356～P 357)	10 款 5 項 6 目 文化財保存調査費	所管課等	文化行政課
事業名	文化財保存整備費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
7,355	6,477				286 (諸収入)	6,191
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	878				878	

**【目的】**

市内に所在する文化財の保存・活用を図り、市民が郷土の歴史や文化に誇りや愛着を持てるように努める。

## 平成 30 年度の取組

**【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】**

## ○平成 30 年度目標

県内最多を誇る 367 件の指定文化財の適切な保存・伝承に努めるとともに、計画的に新たな指定を行うことにより適切な保護を図り、活用を促進する。

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・文化財調査審議会の開催 (2 回)
- ・上越市文化財の指定
- ・北前船関連のパネル展示及び座談会の実施
- ・文化財等の管理委託  
史跡の草刈りや遊歩道整備等 (直峰城跡、宮口・水科古墳群等)
- ・無形民俗文化財保存事業への補助  
西横山小正月行事保存会、月影雅楽保存会、切光神楽保存会等
- ・指定文化財保存管理事業への補助  
浄興寺本堂、虫川の大スギ、坊金の大スギ、林富永邸等

**【事業の成果】**

- ・「船絵馬並びに船模型」、「旧第四銀行高田支店」及び「旧直江津銀行」の 3 件を上越市文化財に指定した。
- ・北前船に関連した日本遺産認定を記念し、市民周知のため、関係課等と連携を図り市内 4 か所で北前船関連のパネル展を開催した。また、直江津学びの交流館で開催した座談会は、約 120 人の参加があった。
- ・平成 30 年度新規事業として、坊金の大スギの樹勢回復への補助を行い、保存に努めた。
- ・小学校の総合的な学習の時間や文化財に関する講座への講師派遣などにより、文化財保護の啓発を行い、郷土の歴史・文化に誇りや愛着を持てるように努めた。

決算書 (P356～P357)	10 款 5 項 6 目 文化財保存調査費	所管課等	文化行政課
事業名	文化財保存整備費		

**【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】**

- ・未指定文化財の調査を進め、保護を図る。
- ・文化財指定後は、関係課と連携を図りながら、市民周知を図る。
- ・文化財標柱、説明看板等については、維持管理方針に基づき、必要な修繕、撤去、譲渡等を進める。

**【執行残額について】**

○その他	878	
・報酬、旅費ほか		633
・需用費、役務費		61
・使用料及び賃借料		88
・負担金、補助金		96

(単位：千円)

決算書 (P356～P359)	10 款 5 項 6 目 文化財保存調査費	所管課等	文化行政課
事業名	春日山城跡保存管理事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
7,553	7,525					7,525
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	28			14	14	

## 【目的】

上越市が全国に誇る春日山城跡を生きた歴史資料として体感できるよう、春日山城史跡広場を始め春日山城跡ものがたり館、大手道等の適切な維持・管理と保全を行う。

## 平成 30 年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○平成 30 年度目標

- ・国指定史跡春日山城跡のガイダンス施設として、広大な城跡の価値や魅力を分かりやすく紹介するとともに、広く発信する。
- ・春日山城跡ものがたり館入館者数：22,000 人

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・史跡指定地公有化率 95.0% (512,151.32 ㎡)
- ・春日山城跡(公有化した史跡指定地)、春日山城史跡広場、春日山城跡ものがたり館等の維持管理  
委託先：春日山城史跡広場管理組合(地元5町内会〔大豆、春日、中門前、谷愛宕、春日野])
- ・大手道及びカキツバタの維持管理
- ・史跡広場の柵及び排水溝の修繕
- ・「日本100名城」スタンプラリーの参加者 6,141 人(平成29年度 6,636 人)

## ○施設の管理実績(春日山城跡ものがたり館)

- ・入館者の推移

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
			計画	実績
入館者数	22,233 人	24,720 人	22,000 人	22,916 人

決算書 (P 356～P 359)	10 款 5 項 6 目 文化財保存調査費	所管課等	文化行政課
事業名	春日山城跡保存管理事業		

・施設管理における市の収支状況

区 分		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	—	—	—	—
	その他	—	※ 7,346	—	—
	合計	—	7,346	—	—
②支出	施設維持管理費	5,380	4,779	4,981	4,954
	うち委託料	3,766	3,458	3,589	3,588
	その他	2,681	2,567	2,572	2,571
	合計	8,061	7,346	7,553	7,525
③公費投入額 (②－①)		8,061	0	7,553	7,525
④利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位：円)		363	0	343	328

※寄附者の意向により国宝太刀収集事業寄附金を充当したもの

○目標達成状況

入館者数は 22,916 人であり、目標と比べて 916 人上回った。

【事業の成果】

- ・春日山城史跡広場管理組合への委託により、春日山城跡ものがたり館及び史跡広場の管理や草刈りを適切に行い、良好な環境を維持・管理することができた。
- ・史跡全域に管理が行き届き、安全・安心に史跡散策できる環境を維持した。
- ・史跡の環境が適切に保全され、謙信公祭のメイン会場として定着するとともに、市民の史跡公園として多くの方に利用いただいた。
- ・監物堀や大手道沿いに移植したカキツバタが訪れる方々の目を楽しませた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

史跡としての価値を損ねないように、引き続き広大な史跡用地の良好な環境保全に努める。

【執行残額について】

- 入札差金 14
  - ・借上料
- その他 14
  - ・光熱水費、使用料及び賃借料ほか

(単位：千円)

決算書 (P 358～P 359)	10 款 5 項 6 目 文化財保存調査費	所管課等	文化行政課
事業名	春日山城跡 5 か年整備事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
5,093	5,050				230 (都附金)	4,820
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	43			7	36	

## 【目的】

上越市が全国に誇る国指定史跡春日山城跡を、風雨などによる損傷から守り、約 100 年前の山城の景観に復元して後世に継承するとともに、地域学習の教材として利活用を図る。

平成 30 年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・平成 10 年度『春日山城跡整備 5 か年計画』を策定
- ・平成 11 年度から春日山城跡 5 か年整備事業を開始(平成 30 年度終了)
- ・平成 20 年度『史跡春日山城跡保存管理計画書』を改訂
- ・土砂崩落防止工事の実施(平成 19～28 年度)
- ・杉伐採等による景観整備及び草刈りや低木伐採などの環境整備の実施
- ・遊歩道等の修繕
- ・市民団体や地元小中学校との協働による土の一袋運動や松葉かきの継続
- ・平成 28 年 7 月に春日山城跡但馬谷で発生した土砂崩落の災害復旧を実施(平成 28 年度実施設計、平成 29 年度災害復旧工事実施)
- ・専門家の指導を踏まえた災害復旧後の点検及び経過観察の継続
- ・散策会(まいぶん春日山講座)の実施

## 【事業の成果】

- ・春日山城跡の災害復旧工事後の点検及び経過観察を専門家の指導を受けながら継続的に行い、城跡保全に不可欠な雨水処理や植生管理、遊歩道の在り方等を検証し、必要な工事(土留め工事・排水路修繕工事)を実施することができた。
- ・城跡を訪れる人が安全・安心に散策できるように、遊歩道の修繕等を行った。
- ・地域団体や大学、小中学校等の協力を得て、草刈りや土の一袋運動、松葉かきなどを行い山城景観の維持管理を図るとともに、活動を通じ、城跡の保護と郷土の史跡への愛着を深めることができた(小中学生参加者：計 997 人)。
- ・講座の開催や小中学校との連携により、地域学習の教材として利活用を図ることができた。

決算書 (P358～P359)	10 款 5 項 6 目 文化財保存調査費	所管課等	文化行政課
事業名	春日山城跡5か年整備事業		

**【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】**

引き続き城跡保全のため、一番の課題である雨水処理や植生管理等について専門家から指導を受けながら日常的な点検・観察を続けるとともに、城跡の保存に影響を及ぼす鳥獣被害対策や自然状況に合わせた取組を行う必要がある。

**【執行残額について】**

- 入札差金 7
  - ・工事請負費
- その他 36
  - ・報酬、旅費ほか

(単位：千円)

決算書 (P358～P359)	10款5項6目 文化財保存調査費	所管課等	文化行政課
事業名	市内遺跡発掘調査事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
7,291	6,732	3,290	778			2,664
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	559			35	524	

## 【目的】

各種開発事業から埋蔵文化財を守るため、発掘調査を行い、開発事業との円滑な調整を図る。

## 平成30年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

- ・ 県営ほ場整備事業等の開発地内で試掘・確認調査等を実施した。
- ・ 県営ほ場整備事業地内で本発掘調査を実施した。
- ・ 試掘・確認調査の結果を発掘調査報告書として刊行した。

<確認調査>周知の遺跡の範囲、内容等の詳細を確認するための調査 (単位：㎡)

遺跡名(開発事業)	所在地	調査対象面積
高田城跡(旧総合博物館収蔵庫跡地内)	本城町地内	3,300
高田城跡(高田公園野球場防球ネット工事地内)	本城町地内	36
今池遺跡(県営ほ場整備事業地内・今池地区)	大字今池地内ほか	191,000
関根高畑遺跡(県営ほ場整備事業地内・高野地区)	板倉区高野地内ほか	54,000
江下遺跡(県営ほ場整備事業地内・高野地区)	板倉区高野地内ほか	58,000
高野砂田遺跡(県営ほ場整備事業地内・高野地区)	板倉区高野地内ほか	62,000
道之下柳町遺跡(県営ほ場整備事業地内・道之下地区)	吉川区道之下地内ほか	48,000
原山遺跡(一般国道253号線建設地内)	三和区神田地内ほか	13,000
茨山A遺跡(一般国道253号線建設地内)	三和区神田地内ほか	8,000
蓮花寺五輪塔群(一般国道253号線建設地内)	三和区末野地内ほか	18,000
馬場遺跡(送電線鉄塔建設予定地内)	浦川原区虫川地内	38
三口沢遺跡(送電線鉄塔建設予定地内)	三和区神田地内	38
島田四間割A遺跡(送電線鉄塔建設予定地内)	頸城区島田地内	174
合計		455,586

決算書 (P 358～P 359)	10 款 5 項 6 目 文化財保存調査費	所管課等	文化行政課
事業名	市内遺跡発掘調査事業		

<試掘調査>周知されていない遺跡の有無を確認するための調査 (単位：㎡)

開発事業	所在地	調査対象面積
県営ほ場整備事業地内 (岡野町地区)	清里区岡野町地内ほか	257,000
県営ほ場整備事業地内 (高野地区)	板倉区高野地内ほか	230,000
送電線鉄塔建設予定地内	浦川原区岩室地内	38
合計		487,038

<本発掘調査>県営ほ場整備事業に係る発掘調査 (単位：㎡)

遺跡名 (開発事業)	所在地	調査面積
天狗遺跡 (県営ほ場整備事業地内・高野地区)	板倉区高野地内	400
合計		400

<発掘調査報告書作成>

遺跡名 (開発事業)・報告書名	調査地
上水尻遺跡 (県営ほ場整備事業地内・三和中部第1地区)	三和区今保地内
台の上遺跡 (県営ほ場整備事業地内・木島地区)	大字木島地内
『市内遺跡発掘調査概要報告書』	市内全域

### 【事業の成果】

事業主体との円滑な調整を行い、工法変更等による現地保存や発掘調査による記録保存により埋蔵文化財の保護を図ることができた。

### 【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

今後も事業主体との円滑な調整を行い、埋蔵文化財の保護に努める。

### 【執行残額について】

○入札差金 35

・印刷製本費、委託料

○その他 524

・報酬、共済費、旅費、需用費、委託料ほか

(本調査面積が当初の予定より減少したことや、土器などの出土量が想定より少なく、作業量が減少したため)



高野地区試掘調査 調査風景



島田四間割A遺跡 調査風景